

夏休み自由研究 お助けキット No.2

2) キャンドル 手作り キット **Candle Making Kit** 作り方説明書

～自然素材を活用した、かんたんキャンドル作り！

ハチが作り出す「みつろう」を使った、ナチュラルキャンドル。
そのまま使える缶容器も完備、型だしの苦勞はいりません。
炎を見ていると、いろんなイメージが浮かんできますよ。

作業時間 約 30 分。(火を使います)



【キットに含まれるもの】

- ✚ みつろう Beeswax 40g
- ✚ マカダミアオイル Macadamia 5ml
- ✚ ステンレス缶 (芯どめ金具付き)
- ✚ ランクアップ情報シート
- ✚ シール
- ✚ この説明書



【準備するもの】

- ✓ 小さめのナベ (ミレクパンなど)

お好みでエッセンシャルオイルやハーブを加えたり、クレヨンなどで色づけすることもできます。

できあがったキャンドルの使い方：

- ◆ ステンレス缶のふたを外して、「ろうそくの芯」に火をともします。
ステンレス缶は熱くなりますので、ご注意ください。
底に、「なべしき」等を置いてご利用ください。
- ◆ 火を消したいときは、ステンレス缶のフタを 上からかぶせるだけ。けむりも出ないので、衛生的です。
- ◆ 持ち運ぶときは、ステンレス缶のフタをしておけば、よごれることもなく便利ですね。



【作 り 方 】 =====

1. みつろうとマカダミアオイルを、なべに移します。
郵送中の漏れを防ぐために中栓トロッパーを付けていますが、これを外してご利用ください。
2. なべを弱火で熱します。(みつろうの融点^{ゆうてん}は、65 度程度)
ロウを沸騰させないように、様子を見ながら時々火からおろしてゆっくり溶かしてください。
慎重派の方は、湯煎を利用してもいいです。
3. みつろうが完全にとけたら、なべを火からおろします。
エッセンシャルオイルやハーブなどを加えたいときは、このタイミングで。
4. ステンレス缶に流し込みます。このとき、「ろうそくの芯」がゆるみも傾きもなく、まっすぐ上に立っていることを確認してください。
液体ロウの熱により、ステンレス缶も熱くなります。やけどをしないように注意してください。
5. ろうが固まったら、「ろうそくの芯」を、ろうの外、1センチくらいのところで切って出来上がり。

ご注意：

- キャンドルに火をともしるときは、必ず保護者の方が付き添ってください。
- 火のついたキャンドルを誰もいないところに放置しないでください。
- 火の取り扱い、火の始末には十分ご注意ください。

みつろうのヒミツ

みつろう(ビーズワックス)は、ミツバチがそのからだから作り出すロウです。

はたらきバチが、みつろうで小さな部屋を作ります。

女王バチは、その部屋にひとつひとつ卵を産んでいきます。

はたらきバチは卵が入った部屋をみつろうで封をします。

卵はみつろうの部屋の中で孵化(=卵からかえること)し、幼虫として育ちます。

みつろうはミツバチにとって、赤ちゃんを産み育てる育児室を作るための、住宅建材(家を作る材料)なのです。

卵も幼虫も、外のバイキンなどにやられると、すぐに死んでしまいます。

そんなひ弱な卵や幼虫を守るために、みつろうには殺菌・保護作用のある成分が含まれています。

また、集めたハチミツ(炭水化物)や花粉(たんぱく質)を保存するためにも、みつろうは活用されます。

みつろうには、ハチミツや花粉も少しだけ含まれています。ミツバチが吸った花の香りが影響するので、オーストラリア産のみつろうは、ほんのり甘く、ユーカリのような香りがあります。

お店で売られているキャンドル(ろうそく)のほとんどは、パラフィン(石油を原料としたロウ)で作られています。このパラフィンは燃やすとき出る煙が一定量を超えると、からだに有害だと言われています。

みつろうを利用したキャンドル(ろうそく)は、有害な煙は出ませんので、健康的にも安心して使えるものです。その炎は、ふつうのキャンドルよりも濃く、オレンジ色をしています。

キャンドルの炎（ほのお）から、見えるイメージを描いてみよう！

炎をぼーっと、ながめてみましょう

なにか見えてくるイメージはありませんか？

炎の形、炎の色、炎から広がる光。

そして、炎とはまったく関係のないモノやヒトが見えるかも…。

マッチ売りの少女が炎に夢の世界を見たように、

私たちにも炎のなかに、夢が描かれるかもしれません。

見えたものをそのまま、絵に描いてみましょう。

すてきなアートができあがりそうですね。

【保護者の方へ】

子どもには大人よりも、スピリチュアル（霊的）な能力をもっています。

私たちは、生まれたときから宇宙と繋がっているのです。

子どもが小さい頃、大人には見えないものが見えたり、感じたことを教えてくれた経験はどなたにもあるのではないのでしょうか。

それが小学校にあがるくらいから、社会環境の影響を受けて、次第に消えていってしまいます。大人に「そんなもん、いないんだよ」などと否定されて、見えているものも見えないことになっていくのです。そして、成長するうちに、見えていたということすら忘れてしまいます。

小学生くらいなら、リラックスした雰囲気での「いいのよ、見えたとおりに描いてごらん」と足してあげれば、きっと自然と表現してくれるのではないのでしょうか。

どうか、お子さんの能力を信じて、ありのままに受け入れてあげてください。

そして、親御さんも一緒に、感じたこと、見えたこと、聞こえたことをそのまま楽しんでみてください。

みんなの自由研究体験記、大募集！

<http://www.e-conception.org/cgi-bin/formzc/form.html>

サイトに掲載されると、「おやすみ猫シール」が当たります。